



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2011年3月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '10 神通研集会報告⑦ ～

助言者のまとめ

災害に対する知識、事前の備えの大切さ等、情報交換できたと思います。

阪神・淡路大震災を経験したろう者が、避難所で食糧等の配給案内放送がわからず困っていたところ、手話サークルの人が積極的に話しかけてくれて助かったそうです。まだまだ手話は未熟な人でしたが、放送案内があると誘ってくれたとのこと。

サークルのみなさんには、今後ともろう者の身近な仲間であって欲しい。ろう者のことを地域の健聴者に理解してもらおうような活動もして頂きたいと思います。

ろう者、健聴者、いっしょになって頑張っていきましょう!!

～ 定例会 2/27 (日) ～

「サークル研究班」が「より良い手話サークルとは?」を考えていくに当たり、基本の方向としてきた全日ろう連が発行(平成3年)した「手話サークルに関する指針」と現在のサークル活動について意見交換しました。

また、今、全国で取り組まれている「WE LOVE コミュニケーション」パンフの普及と署名活動の地域の取り組み方について情報交換しました。地域のろう協の呼びかけ方は、さまざまな状況です。

【次回定例会】
3/13 (日) 10:00~12:00 横浜駅周辺

～サークル研究班メンバーのささやき～

数日前から花粉症が始まってしまった私。これから暫くはマスクが必需品になります。できればマスクなんてしたくないと思っているのに、最近マスクが四六時中離せない若者達がいるそうです。彼達はマスクを自分と第三者との距離を保つ物、身を守る必須アイテムだそうで家にもマスクをつけているのです。なぜそんなに自分を出すことに抵抗があるのか、私には理解できません。あなたは共感できますか?

みやりんこ